

包 括 的 公 表

2022年4月～6月に報告された医療事故のうち、包括的公表となる事例は下記のとおりです。

No.	発生場所	概 略	再発防止策
1	手術室	<p>内視鏡を使用する手術中、ライトガイドケーブルを内視鏡の先端から外し、患者の右側腹部のドレープの上に置いた。手術後、同部位に熱傷が生じた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・内視鏡先端からライトガイドケーブルを外した（使用しない）ときは、必ず電源を切る、もしくはスタンバイモードにする。 ・接続を外したライトガイドケーブルなど高温になるものは、患者の上には直接置かない。手術台に置く場合は必ず専用の膿盆（膿盆に湿らせたガーゼを敷いたもの）に置き管理する。 ・操作上、専用の膿盆に置くことができない場合、滅菌タオル＋シリコンマットを患者のドレープの上に敷き、鋭利なものや高温になるものは、患者の上には直接置かないようにする。 ・医原性の外傷等の場合、病院が責任をもって診療を継続できるように、主科と外傷の治療を行っている科の連携を十分にとる。

No.	発生場所	概 略	再発防止策
2	病棟	患者のベッド操作によって、ネーザルハイフロー回路がベッドに挟まり閉塞	<ul style="list-style-type: none"> ・回路の位置は、ベッドをギャッチダウンした際に、回路が閉塞しない場所に設置する。 ・呼吸器回路を使用中に患者がベッドを操作する際は、看護師を呼ぶように説明を行う。 ・機器にアラーム表示内容や対処方法に関する資料を掲示する。 ・定期的な学習会を実施する。 ・回路トラブルの確認は、用手的に回路を辿って行う。